

4、5歳児クラスでの協同活動のための話し合い

杉 山 弘 子*

Talking on Cooperative Activities in 4 and 5 Years Old Children

Hiroko Sugiyama

4、5歳児クラスでの協同活動のための話し合いのテーマ、合意形成の方法、目的と課題等の実態を把握するために、保育者への面接調査を行った。結果と考察は次の通りである。話し合いのテーマは、日常活動や行事における活動の内容や進め方である。クラス全体での話し合いでは、保育者が進行役となり、子どもたちの伝え合いを支えながら、合意点を見つけていく。どの子も納得できることが大事にされている。グループ単位の話し合いの進行は子どもたちにまかされ、必要に応じて保育者が介入する。小集団の中で、自分の意見を言って共感してもらったり、相手の意見を聞いて認めたりという経験が大事にされている。協同活動のための話し合いの目的は、①集団的な伝え合い、②協同活動の充実、③みんなで生活をつくっていくことやそのための土台をつくること、にある。課題として、①保育の展開の中における話し合いの位置づけ、②話し合いの内容と展開、③保育技術、という三つの側面を抽出できる。

キーワード：4、5歳児クラス、協同活動、話し合い、合意形成

〈目的〉

保育所や幼稚園においては、クラスやグループという単位での子どもたちの協同活動とそのための話し合いが見られる。例えば、福岡（2010）は、保育園の4歳児クラスの子どもたちが、グループで相談し、協力しながらお店屋さんごっこに取り組んだ実践を報告している。また、三浦（2016）は、保育園の年長の子どもたちが、話し合いながら、ペープサートや運動会の競技、劇を作っていく姿を報告している。協同活動のための話し合いは、4、5歳児クラスの子どもたちの生活と遊びの充実にとって、重要な意味をもつものと考えられる。

幼稚園の4、5歳児クラスの幼児に面接を行った杉山（2015）は、「幼児は、協同活動とそのための話し合いを積み重ねていく保育実践の中で、様々な立場や感情を経験することで、話し合いのルールを習得し、他者感情を考慮したやりとりによる合意形成が可能になると考えられる」（p.20）と考察している。このように、協同活動とそのための話し合いの積み重ねは、子どものコミュニケーションや対人関係の側面での発達にも影響を与えると考えられるが、保育を計画し実践する立場にある保育者から見た協同活動のための話し合いの実態は十分に明らかにされているとは言えない。

2017年3月22日受理

*尚綱学院大学 子ども学科 教授

杉山・野呂（1998）および野呂・杉山（1998）は、質問紙調査によって、幼稚園および保育所の3歳以上児クラスの担任に、クラス全体での話し合いをもつことがあるかを問い、ある場合には、話し合いのテーマ、持ち方、場面、時間的な目安、ねらい、話し合い場面での子どもたちの姿を尋ねている。しかし、この調査は協同活動のための話し合いに焦点化されたものではなく、合意形成の方法等については尋ねていない。新たな調査によって、協同活動のための話し合いの実態を明らかにすることは、保育の内容と方法の検討に資するものと考えられる。

そこで、本研究では、4歳児および5歳児クラスでの話し合いの実践を持つ3名の保育者に、協同活動のための話し合いについて詳しい聞き取りを行う。年齢（4歳児クラスと5歳児クラス）と集団の規模（クラス全体とグループ単位）ごとに、話し合いのテーマ、合意形成の方法、合意形成において大事にしたことと難しいと感じたことを尋ねる。また、協同活動のための話し合いの目的と課題、および4歳児クラスと5歳児クラスの話し合いの違いについても尋ねる。面接調査を通して、保育者から見た協同活動のための話し合いの実態を把握することが本研究の目的である。

〈方法〉

1. 対象

面接調査の対象は、保育所に勤務するA保育士、B保育士と、幼稚園に勤務するC教諭の3名である。A保育士は保育士となって11年目で、4歳児クラスを3年（調査年度は単独担任、他の2年は障害児担当）、5歳児クラスを2年（いずれも障害児担当で、4歳から5歳への持ち上がり）担任している。B保育士は保育者となって14年目で、4歳児クラスを4年（調査年度を含む）、5歳児クラスを5年担任している。C教諭は、幼稚園教諭となって12年目で、調査年度はフリーと主任を兼ねている。4歳児クラスを5年、5歳児クラスを3年担任した経験がある（4歳、5歳と続けてもったのは2回）。

2. 日時と場所

2015年2月、対象者の勤務する保育所・幼稚園の一室にて、1時間13分から1時間36分間、聞き取りを行った。

3. 手続き

調査項目を予め送付し、4歳児クラスと5歳児クラスでの協同活動のための話し合いの実態について尋ねた。回答はその場で筆記するとともに、デジタルメモリーレコーダに録音した。それらを書き言葉にして文字化し、対象者の確認を得て資料とした。

4. 調査項目

調査項目は、①保育者としての経験年数、②4歳児クラスでの協同活動のための話し合いについて、③5歳児クラスでの協同活動のための話し合いについて、④4歳児クラスと5歳児クラスの話し合いの違い、⑤その他、話し合いについて考えておられること、感じておられること、の5つの柱からなる。調査項目の詳細は本稿の末尾に示す。

5. 倫理的配慮

尚綱学院大学人間対象の研究・調査に関する倫理審査委員会の承認を得た後、対象者に研究の目的、方法、倫理上の配慮について文書で説明し、調査への協力と回答を研究資料として使用することへの同意を文書で得た。

〈結果と考察〉

1. 話し合いのテーマ

4歳児クラスと5歳児クラス（以後、5歳児と記す。4歳児についても同様。）のそれぞれにおいて、クラスおよびグループで取り組む活動について話し合っただけで決めることはあったかを日常活動と行事に分けて尋ねた。A保育士とC教諭はすべてであるという回答であった。B保育士は、4歳児の行事についてグループで話し合っただけで決めることはないという回答している。それ以外はあるという回答であった。

話し合っただけで決めることがある場合にはどのようなテーマかを尋ねた結果を表1に示した。表1からは、活動の内容（何をするか）や活動の進め方（どう取り組むか）について話し合っただけで決めることがわかる。クラス全体よりはグループでの話し合いにおいて、また、4歳児よりは5歳児において、何を準備するかや役割分担など、活動をどう進めるかについての話し合いが行われていると見られる。

さらに、B保育士は、4歳児のクラスで取り組む行事の話し合いについて、楽しい活動をつくっていき、「何しようか？」と聞いたときに、「これしたい」と自然に出てくるようにしていく場合（運動会と生活発表会）と、何をしたいかを話し合い、楽しみをもって向かうことを大事にする場合（お泊り会）があると回答している。行事によって、話し合いの位置づけを変えていると考えられる。

2. 合意形成の方法・経緯

どのような方法、経緯で合意を形成したか、多数決やじゃんけんを用いることはあったかを尋ねた結果を、対象者ごとに、表2-1、表2-2、表2-3に示した。

4歳児のクラス全体での合意形成について見ると、3名とも話し合いの進行役は保育者であり、多数決やじゃんけんを用いることはないという回答している。なかなか決まらないときには、保育者が合意のきっかけを与えたり（B保育士）、どうしようかと子どもたちに投げかけて、子どもの発言を引き出ししたりしながら（B保育士およびC教諭）、合意形成を図っている。

4歳児のグループ単位での合意形成では、話し合いの進行は、まずは子どもたちにまかされ、場合によって保育者が介入するが、まかされる度合いは、保育者によって違いがあるようである。B保育士は決め方も子どもたちにまかせており、じゃんけんで決めることもあると言う。他方、A保育士とC教諭は、多数決やじゃんけんで決めることはないという回答し、うまく進まない場合やまとまらないときには保育者が介入している。A保育士の回答は、友だちの意見も聞くことや、みんながいいとなったら決まることを予め伝えることで、子どもたちも合意点を探していくようになることを示唆している。

5歳児のクラス全体での合意形成では、保育者が話し合いの舵取りをしているが、子ども同士でのやりとりも大事にされている（A保育士およびB保育士）。また、これがよいという理由を話してもらい、それを聞いて子どもたちに考えてもらうことが、合意につながると考えられている。なお、3名とも多数決やじゃんけんを用いることはないという。

5歳児のグループ単位での合意形成も、まずは子どもたちに進行がまかされるが、4歳児と同様、まかされる度合いは保育者によって異なる。子どもが他の子どもに理由や気持ちを聞いて、みんなに伝えることも出てくるというA保育士の回答は、グループ単位の場合、子どもた

ちだけでも、みんなで意見を出し合いながら合意を形成できるようになる可能性を示唆している。

表1 話し合いのテーマ

	4歳児	5歳児
A 保育士	<p>○クラス全体 日) 散歩に行きたいがどうか、など、遊びの提案。 行) 絞り染めをして卒園児にプレゼントするTシャツの色。</p> <p>○グループ単位 日) グループの中での当番の順番。グループでどういうものを作りたいかなど。 行) 運動会で一つの種目に共同で挑むのに、どうしたらみんなのできるかなど。</p>	<p>○クラス全体 日) 何をして遊ぶかなど、遊びの相談。生活や遊びの中で起きた問題。 行) 遠足のおやつに何をかうか。お泊り保育でご飯に何を食べたいか。劇をどのようにつくっていくか。</p> <p>○グループ単位 日) 同左。 行) 運動会のリレーにどう取り組むか。夏祭りに向け、どんなおみこしを作るかなど。</p>
B 保育士	<p>○クラス全体 日) 明日の活動(何をするか)。 行) 運動会・生活発表会・お泊り会で何をしたいか。</p> <p>○グループ単位 日) 当番の仕事の仕方(グループで昼食の食器を配る当番を担うとき、どのグループに誰が配るか)。 行) なし。</p>	<p>○クラス全体 日) 同左。 行) キャンプに行くのに、どこに行きたいか、何を準備するか、何をしたいかなど。</p> <p>○グループ単位 日) 同左。 行) キャンプのとき、火起こしチームの中で何が必要かなど。</p>
C 教諭	<p>○クラス全体 日) 月1回のおやつ作りのメニュー。 行) 行事に向かっていく中で自分たちがやりたいこと。</p> <p>○グループ単位 日) おやつ作りでどのようにプリンのコレーションをしたいかなど。チーム対抗のゲームの際の作戦。 行) 年長組のお別れ会に向けて何をつくりたいか、何をしたいか。</p>	<p>○クラス全体 日) 同左。 行) お泊り会でどんなことをしたいか。クリスマスのページの役やセリフ。</p> <p>○グループ単位 日) 同左。 行) お泊り会のグループ活動での役割(リーダー、サブリーダーなど)。</p>

注. 日) は日常の活動について、行) は行事についての回答である。

表2-1 合意形成の方法・経緯-A保育士の場合-

4歳児	5歳児
<p>○クラス全体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの進行役は保育者。 ・一人ずつに意見を聞く。理由を聞き、それを伝えることをみんなが納得するまで繰り返す。どちらでもない意見もありだ、ということを見つけていく。 ・時間が長くなるときには、一回止めて、明日まで何かいいアイデアがないか考えてまた相談しよう、と時間をおく。その間に、少数意見の子やすごく主張している子の話を聞き取って、考えるきっかけを与える。そういうときの方が気持ちがやわらいで、みんなが言っているのもいいと言ってくれたりする。 ・多数決やじゃんけんを用いることはない。 <p>○グループ単位</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちでの相談をまずはみる。うまく進んでいないところには、どの子も発言し、内容がわかるように介入する。 ・友だちの意見も聞くことと、みんなが「いいよ」になったら決まることを初めに伝えておくので、最初は主張だけし合う子もいるが、みんなが「いいよ」になるところを子どもたちも探していく感じである。 ・主張する子に、あきらめる子はなんでもいいよと言ったりするが、一人ひとりに聞く。また、他のグループの姿を伝える。言い合いから譲ってくれた子の話を聞いて、譲ってくれるなど、他の子の話を聞いて、やわらかくなって相談に向かったりする。 ・多数決やじゃんけんを用いることはない。 	<p>○クラス全体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者が提案したり、子どもと一緒にあげかけたりする。自分たちで聞き合っているときは見守り、後で話を聞き、他の子にも伝えてやりとりをつないでいく。 ・一人ずつの意見を聞き、理由を聞いて、また返して行って決めていた。誰が何を言ったのかわかるよう板書すると、多いからそれでよいというようなときもあるが、別の方がよいという子どもの理由を聞いて、もう一度考えてもらう。少数派の意見も尊重されて必ず合意につけるところはある。 ・多数決やじゃんけんを用いることはない。 <p>○グループ単位</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちで相談できるときは見守り、話し合いが進まなくなったときは入る。おみこし作りのときは、その日のリーダーに進行役をやってもらった。 ・4歳児同様、一人ひとり聞いていく。みんなで意見を出し合っていく。子どもが他の子どもに理由を聞いたり、気持ちを聞いたりして、みんなに伝えることも出てくる。 ・多数決やじゃんけんを用いることはない。

表2-2 合意形成の方法・経緯 - B保育士の場合 -

4歳児	5歳児
<p>○クラス全体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進行役は保育者。 ・満場一致で決まりというのは、なかなかない。しかし、例えば、散歩の行き先をどちらの公園にするかで平行線になったとき、保育者が一方の公園にした方がよいと思った場合には、「こんな遊びもできるよね」と言うと、そこでもよいとなる。合意のきっかけは保育者が手伝う。それでも、絶対こっちがいいという子がいたりすると、「どうしようか」と子どもたちに返す。自分が声をかけるよりも、子どもたちが言ってくれた方が納得しやすい感じがある。 ・多数決やじゃんけんを用いることはない。 <p>○グループ単位</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほとんど子どもたちで決める。 ・決め方も子どもたちにまかせている。決め方は様々で、じゃんけんで決めることもある。多数決で決めてしまうまではいかないが、「こっちがいい人?」「はーい」とやっていることはある。保育者が気づいたときには入って行って、手をあげていない子に意見を言ってもらい、「みんながいいよって決められるといいね。多いから決まりじゃなくて」と言う。 	<p>○クラス全体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進行するのは保育者で、舵取りはしているが、子どもたちのやりとりを大事にしたいので、あまり言わないようにしている。 ・年中のときよりも、それをしたいと言う子の思いや理由を話してもらうことを大事にしている。それを聞いて意見が変わり、一つにまとまっていく場合もある。 ・多数決やじゃんけんを用いることはない。 <p>○グループ単位</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進行役は子どもたち。 ・保育者は「これについて話してね」とテーマを渡す。「こんなふう話し合ってね」とは言わない。 ・保育者が知らないところで、「こっちが多いからこっちね」みたいに、子どもたちで決めていたことがなかったわけではない気がする。

表2-3 合意形成の方法・経緯 - C教諭の場合 -

4歳児	5歳児
<p>○クラス全体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの進行役は保育者。 ・おやつ作りの場合、みんなの意見を全部出してもらった後、賛成の挙手をして、ゼロのものは消していく。そこから、意見を変えたり、譲ったりということが子どもたちから出てくる。最終的に2つか3つになったら話し合いで決めていた。 <p>話し合いは保育者が誘導して進めていくこともあるが、子どもたちの意見がポイント出てきて、「それ、いいね」となることもある。子どもたちの話し合いの力がついてきたら、「なんで自分はこれがよいと決めたのか」という理由なども教えてもらうことで、気持ちが変わってまとまっていく。食べられないものがあったとしても、「みんなが食べられるものがないよね」という確認をして、「どうしよう」と言うと、「じゃ、こういうふうにすればいいんじゃないか」とか意見が出る。 ・多数決やじゃんけんを用いることはない。 <p>○グループ単位</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの進行は子どもたちにまかせるが、話し合いがまとまらないグループには、保育者が入ってサポートする。 ・多数決やじゃんけんを用いることはない。 </p>	<p>○クラス全体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの進行役は保育者。 ・おやつ作りの場合、意見を全部出してもらい、賛成者がゼロのものは消していく。選択肢が少なくなったところで話し合う。年長だから作れる料理は何か、どんなことに挑戦したいかも意識させながら進める。 ・多数決やじゃんけんを用いることはない。 <p>○グループ単位</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちで決められるようにしているが、どうしても決まらないときには保育者が入る。 ・多数決やじゃんけんを用いることはない。

3. 合意形成で大事にしたこと

合意形成にあたり大事にしたこと、留意したことは何かを尋ねた結果を表3に示した。

4歳児のクラス全体では、みんなが意見を出していること（A保育士）、少数派の意見も大事にされ（A保育士）、少数派の子も納得できること（B保育士）、譲ってくれた子も活動を楽しみにできること（C教諭）が挙げられている。さらに、B保育士は、これをしようという活動の楽しさを挙げている。

4歳児のグループ単位では、どの子も自分の意見を言ったり、聞いたりしながら納得して決められることが大事にされている（A保育士およびB保育士）。C教諭は、言ったり聞いたりする中で、同調したり共感したりすることを挙げている。また、A保育士は、グループ単位でいっぱい話したり聞いたりすることが、クラス単位での合意形成につながると考えていると見られる。

5歳児のクラス全体について、A保育士は、少数派の意見を必ず聞くこととともに、考えを

認め合えることを挙げている。B保育士は、理由を言ってもらうことや子どもたちのやりとりの中で気持ちが変わっていくことを挙げる。また、活動の楽しさを重視している点では4歳児と同様であるが、保育者が引っ張るのではない関わり方に変えている。C教諭は年中と変わらないとし、そのときの子どもたちに合わせることを大事にしていると言う。

5歳児のグループ単位では、自分の意見を言うことが重視される（B保育士およびC教諭）とともに、少数派の意見に耳を傾けること（C教諭）や相手の意見を認めること（A保育士）が大事にされている。

4. 合意形成で難しいと感じたこと

合意形成において難しいと感じたことは何かを尋ねた結果を表4に示した。

4歳児のクラス全体では、イメージすることの個人差や体験していないことはイメージしにくいこと（A保育士）、強く主張する子どもがいる場合の決め方（B保育士）が挙げられている。また、保育者自身の進め方も挙げられている（C教諭）。

4歳児のグループ単位では、イメージできないと話し合いが進まないこと（A保育士）、自分の意見を通したい子どもがいる場合の納得のいく決め方や意見の出ない子どもの思いをどう出してあげられるか（B保育士）が挙げられている。C教諭は、どの子ども意見が言えて合意形成ができるようにすることに難しさを感じていると見られる。

5歳児のクラス全体での合意形成の難しさについて、A保育士は、クラスで決めることも多くなってきて時間も長くなり、話し合い自体に飽きてしまう子もいることを挙げている。表4の内容に加えて、特に障害児では、クラスの話し合いの場にいられなくなったりすることを語っている。少し休憩しに行ったりするが、最後に決めるときには、必ずその子たちにも、「こういうふうみんな考えたんだけどいい？」と聞いて、いいよとしてもらってからでないと決まらないので、戻って聞いてもらうようにしていたと言う。B保育士は、満場一致の難しさを挙げている。同時に、楽しさに向かっていくことが合意形成の鍵となることも示唆している。C教諭は自身の進め方とともに、集団の雰囲気についていけない子どもへの配慮を挙げている。

5歳児のグループ単位でも、A保育士は、話し合いの内容がわからずに、その場にいられない子たちがどう参加できるかを挙げている。B保育士は、自分が思うように決めてしまう子どもがいるときに、どうみんなが納得できるかを挙げている。C教諭は、子どもたちの力がついてきているので、難しいと感じたことは、あまりないと言う。

以上の結果は、年齢や集団の規模だけでなく、集団を構成する子どもたちの状態によって、どこに合意形成の難しさを感じるかも違ってくることを示唆している。

表3 合意形成で大事にしたこと

	4歳児	5歳児
A 保育士	<p>○クラス全体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなが自分の意見をしっかり出せているか。 ・少数派や一人の意見も大事にくみとる。 <p>○グループ単位</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必ずみんなが「いいよ」になる。 ・少し時間をおきながら、どの子も納得できるようにする。 ・クラス単位で決めることに向かっているように、グループ単位では、いっぱい主張したり、相手の話を聞いたりすることに、より時間をかける。 	<p>○クラス全体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少数派の意見を必ず聞く。 ・一つに決めるので、どちらかは没になるが、考えは分かり合え、認め合えること。 <p>○グループ単位</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の意見を認めること（友だちの意見をただ否定するのではなく、どうしてなのかを、4歳児のときよりは、もっとくんでくれていた）。
B 保育士	<p>○クラス全体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少数派の子どもが納得できるようにすること。 ・楽しさ（保育者が「これしたいんだけど、どう？」と引っ張ることや、遊んで楽しかったからまたしたいというきっかけを投げること）。 <p>○グループ単位</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見を言えて、納得して決められること（全体では言えない子も）。 	<p>○クラス全体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理由を言ってもらうことや、子どもたちのやりとりの中で気持ちが変わっていくこと、楽しそうだなということで気持ちが一つになっていくようなこと。 ・保育者が引っ張るのではなく、子ども目線で同じように意見を言うこと。 <p>○グループ単位</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4歳児と同じ。年長の方が、自分の意見を言うことをより大事にしていた。
C 教諭	<p>○クラス全体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・譲ってくれた子の思いを他の子に伝える。トッピングは譲ってくれた子の好きなものにするなどして、譲ったけれども楽しみだと思えるように意識した。 <p>○グループ単位</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見とかイメージや思いを友だちに伝えて、「でもそれはこうじゃないか」とか、「これいいね」というような、思いを聞いたり、自分の意見を言ったり、同調したり共感したりというところ。 	<p>○クラス全体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年中のときと同じ。年中、年長というよりは、そのときの子どもたちに合わせる。 <p>○グループ単位</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多数決は使わない。どんなに少ない人数でも自分の意見を言うと、共感してもらえて、それに決まることもある。卒園してからも、自分の意見を言うことや少数派の意見に耳を傾けることを大事にしてほしい。

表4 合意形成で難しいと感じたこと

	4歳児	5歳児
A 保育士	<ul style="list-style-type: none"> ○クラス全体 <ul style="list-style-type: none"> ・相談するときに、イメージすることの個人差がある（最初の頃）。また、体験していないことはイメージしにくい。 ○グループ単位 <ul style="list-style-type: none"> ・体験していない、イメージできないために、話し合いが進まない、決まらないということがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○クラス全体 <ul style="list-style-type: none"> ・クラスで決めることも多くなってきて時間も長くなり、話し合い自体に飽きてしまう子もいる。 ○グループ単位 <ul style="list-style-type: none"> ・話し合い自体の内容がわからずに、その場にいられない子がいたときに、その子たちがどう参加できるか。
B 保育士	<ul style="list-style-type: none"> ○クラス全体 <ul style="list-style-type: none"> ・絶対これがいいと言い張る子もいる。その子の育ちや個性を考え、保育者もその子よりになることもある。どの辺で決めるかが難しい。 ○グループ単位 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見を通したい子がいる場合、納得して決められるようにすること。逆に、意見が出ない子の思いをどう出してあげられるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○クラス全体 <ul style="list-style-type: none"> ・満場一致が難しい。楽しみに向かっているときは、満場一致になりやすい。納得しないまま進んだこともある。 ○グループ単位 <ul style="list-style-type: none"> ・集団が小さいので、自分が思うように決めてしまう子もいたりする。そういう子がいたときに、どうみんなが納得して、すっきりとなるか。
C 教諭	<ul style="list-style-type: none"> ○クラス全体 <ul style="list-style-type: none"> ・最初の頃、子どもたちの意見ばかり聞きすぎると、まとまらなくなるということがあった。 ○グループ単位 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見を言えない子に、保育者が意見を聞いたり、仲立ちしたりするが、保育者がずっと入っていないとまとまらない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○クラス全体 <ul style="list-style-type: none"> ・年中のときよりも、よしやろうとなると即決する。その雰囲気についていけない子に対して、どう個別に配慮していくか。 ・行事をどう話すか（わかりやすく、長くないように、もっと子どもたちで考えられるようになど）に難しさがあった。 ○グループ単位 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの力もついてきているのであまりない。

5. 協同活動のための話し合いの目的・意味

協同活動のための話し合いの目的・意味は何かを尋ねた結果を表5に示した。

4歳児では、集団の中での伝え合いが大事にされている（A保育士、C教諭）。また、話し合いは協同活動の目的を明確にし（B保育士）、活動の楽しさや達成感につながる（C教諭）と考えられている。

5歳児では、話し合うことで自分たちの楽しさを膨らませること（B保育士）やクラスとして喜び合うこと等（C教諭）が挙げられている。また、みんなで活動するために話し合って決めることの土台をつくること（A保育士）や、困難なこともみんなで話をして解決していこうということ（C教諭）が挙げられている。

表5 協同活動のための話し合いの目的・意味

	4歳児	5歳児
A保育士	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いや考えをしっかりと仲間の中で伝える。 ・友だちの話にも耳を傾け、考えや思いに気づいて、ちょっと考えてみる。 ・グループでの話し合いでは、いつも遊んでいる友だち関係とは違う関係の中で、どの子も意見を主張したり、受け入れてもらえる体験を積んでほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一つの目標、目的に向かってみんなでやっていく経験が、これから先、大きくなっていくところでの基盤になっていくのかなと思う。相手とやりとりして話し合って決めていくという土台をつくってあげたい。
B保育士	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなで活動するとき、こういうことをするのだとわかって動く。目的をはっきりさせるとのこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しさをより膨らませる。話して思いをめぐらしながら、自分たちの楽しさを大きくしていく。目標を立てて向かうことで、「よっしゃ、成功した」ということもある。そうしたらまた話し合う。
C教諭	<ul style="list-style-type: none"> ・自主的に自分の思いを言うことの嬉しさ、共感してもらえる嬉しさ、譲ってくれた友だちにありがとうと思う気持ち、本当はこれをやりたかったけれどがまんしようというような気持ちを大事にしてきた。 ・自分たちで決めるからこそ、楽しんで頑張れるし、「できたね」とクラスで喜び合える。それが他の学年にも刺激になったり、刺激を受けたりする。遊びや園生活の全部がつながっていた気がする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスとして喜び合うとか考えること。 ・できないこと、難しいこと、困ったことも、みんなで話をしてみても、みんなで解決していこうということ。

6. 協同活動のための話し合いにおける課題

協同活動のための話し合いにおける課題は何かを尋ねた結果を表6に示した。

4歳児で挙げられた課題は、子どもたちで相談しながら活動する機会をもつこと（A保育士）から、活動の楽しさをつくること（B保育士）や話し合いにおける保育者の伝え方（C教諭）まで、さまざまである。5歳児では、子どもからの発信での話し合いの設定（A保育士）や、どの子も自分の思いを言えるようにすること（B保育士）が挙げられている。

表6 協同活動のための話し合いにおける課題

	4歳児	5歳児
A 保育士	・もっと子どもたちで何か相談して、自分たちでやってみることをできたらよかった。相談しながら、ルールを考えながら、ルールを決めながら、という遊びをもっとできたらよかった。	・子どもからの発信での話し合いがなかなかできなかった。話し合いは大事にしてきたが、問題提起は大人だった。
B 保育士	・今日はこれをするとうわかって活動するためには、その先に楽しさがあるとよりいい。子どもたちが求めている楽しさを作ってあげることが課題である。	・話し合いを引っ張っている子だけでなく、自分の思いは言ってもらいたいので、それを大事にしたい。
C 教諭	・子どもたちに伝わるような話し方や、子どもたちと空気を合わせることが、自分の中の課題である。	(課題として挙げられたものはなかった。)

7. 4歳児クラスと5歳児クラスの話し合いの違い

4歳児クラスと5歳児クラスの話し合いの違いを尋ねた結果は、下記の通りである。

(1) A保育士

4歳児はグループ単位、少人数での話し合いがメインだった。5歳児はもっと大きな集団(クラスを二つに分けたグループやクラス全体)での話し合いが多い。4歳児は、単純にみんながいいよとなって決められたことが、ただ嬉しかったりしているところがある。5歳児はもっと主張もしっかりしてくる。理由があるからすごく主張しているとか、なぜ納得できないかが、けっこう明確になってくる。それをくむ力もある。4歳児は、自分のこととしては主張もし、考えることもできるが、5歳児は、もっと友だちや小さい子のことも考えておやつを決めるとか、相手のことも考えて話し合いも進んで行っている気はした。意見が違って、違う人の意見も認めているから、折り合いをつけ合うこともできるのかと思う。

(2) B保育士

先を見通すというところでは、年中だと、楽しいことに飛びつきやすい。保育者がポンと出したものに、「行く行く」となる。年長だと、もちろん飛びつくが、もっとこうしたらいいとか、工夫とか、アイデアとかが出てくる。それと、自分の生活体験を踏まえて、「だって、父さんこういうふうには言った」とか、「前こうしたけど、こうなったから違うのではないか」とか、自分の経験したことを今話していることにつなげて話す。年長の方が、やれることの範囲が広いし、自分たちで決めて達成することでの成功体験とか、やりきったという達成感は大きい。年中は、大人も含めたみんなで、今日孫悟空助けられて良かったねというところが、年長だと、自分たちでこんなことできたねとか、自分たちでというのが強い。

(3) C教諭

4歳児はまだ、やりたいことにできることがついていかない。でも、できないからむりじゃないとするのではなく、なるべく子どもたちのやりたいことを実現できるようにするために、保育者が支える。年長になると、やりたいと思ったものに近づいていける。こうするからこう

したいとか、こうしたいからこうするんだとか、ある程度子どもたちの方から具体的に伝えてくる。保育者がうまく話せないでいると、子どもたち自身でイメージしながら、保育者の言いたいことをくみ取ってくれる。

以上の通り、4歳児に比べて5歳児では、相手のことを考えて話し合いを進めることができるようになること（A保育士）や、さまざまなアイデアが出てくるようになり、自分の経験と結びつけながら話し合いができるようになること（B保育士）が挙げられている。また、できることが広がり、自分たちで決めてできたことでの達成感が大きいこと（B保育士）や、やりたいことを具体的に伝えてくること（C教諭）が挙げられている。

8. その他、話し合いについて考えていること、感じていること

その他、話し合いについて考えておられること、感じておられることを尋ねた。結果は以下の通りである。

(1) A保育士

- ① 話し合って決めていくことはたいへんな活動だが、人とかがわっていくうえで大事なことである。強く出す人の言うことを聞くのではなく、思いを出し合い、くみ取り合いながらというのが大切な活動なのだと思う。いろいろな人の意見を聞いたり、折り合いをつけながらやっていくことで、自分たちでもできていくようになるのも感じた。これから先も、話し合っているいろいろなことを解決していける人になってほしい。
- ② 話し合いをすることで自分とは違う考えの人もいることを知る機会になっている。
- ③ 自分と同じ思いの人もいることにも気づける。それで安心したりする。

(2) B保育士

こうするとうまくいくみたいなのは、働き続けているうちは出てこないのではないかな。そのときそのときで、今日はこうやって話をまとめたけれど、あれで良かったのかなとかいつも思う。ただ、今年の年中では、楽しいことがボンとあって、保育者が、「じゃ、あれ探しに行こう」と言うことがすごく多かったが、そういうやり方をやってきて、運動会とか生活発表会とか、いつもより緊張よりも楽しさが大きくて、「おれたちやれたね」みたいな手ごたえも過去にもった年中よりも、より子どもたちが感じている気がして、話し合いを引っ張るといふか、こういう出し方でも良かったのかなという手ごたえを感じた。自分たちがここまでやれたんだねというところが感じられれば、楽しいことに乗かって保育者が引っ張っても、子どもたちはそういうつもりで話し合いはしていないと思うので、おれたちで話し合ったんだみたいな、考えて作ったんだみたいになりやすいかなと思うので、そういうやり方でも良かったのかなと振り返って思う。

(3) C教諭

花の日礼拝や収穫感謝礼拝も大事にしている。たとえば、花の日礼拝を守るときに、神様に感謝するが、周りの人たちへの気づきやありがとうの気持ちも大事にしている。花をもってきたものをプレゼントしに行こうと子どもたちから出てきたりすると、誰にもって行きたいかを話し合う。収穫感謝礼拝でもちよった収穫物も、どんな料理にするか、誰にもって行きたいかとか、話し合う。郵便屋さんや、クリーニング屋さん、消防署に届けに行き、幼稚園だけでなく周りの人たちにも支えられていることに、常にありがとうの気持ちをもてるように話をしてきた。

自分のクラスだけでなく、他の学年も含めて、他のクラスのことにも興味をもったり、喜んだり、憧れをもったりできるようにした。

嬉しかったのは子どもたちに支えられてきたことである。次の日の活動を覚えていて、保育者が忘れていると、ここ決めるんじゃないかとか、言ってくれる。

以上である。A保育士とC教諭は人間関係の発達における話し合いの重要性を、B保育士は、4歳児の話し合いの進め方において活動の楽しさに乗ることの大事さを指摘していると考えられる。

〈総合的考察〉

ここでは、4、5歳児クラスにおける合意形成の実際について総合的に考察するとともに、協同活動のための話し合いについての考察を深める。

1. クラス全体での合意形成の実際

クラス全体での話し合いの進行役は保育者である。ただし、5歳児になり、子ども同士でのやりとりが見られるときには見守る。保育者は、子どもたちの伝え合いを支えながら、合意できるところを一緒に見つけていこうとしている。合意形成においては、少数派の子どもも譲ってくれた子どもも、どの子も納得できることが大事にされている。協同活動のための合意形成においては、誰もがその活動に意欲的に向かえるよう、配慮がなされている。一方、活動の楽しさへの期待は、合意形成を促進すると考えられている。どの子も参加できる話し合いの展開を工夫しつつ、個別の配慮もしながら、全体での合意形成を図ることが課題とされている。

2. グループ単位での合意形成の実際

グループ単位の話し合いでは、進行は子どもたちにまかされ、必要に応じて保育者が介入している。4歳児からの積み重ねによって、5歳児では子どもたちだけで合意形成ができるようになる可能性が示唆されている。小集団の中で、自分の意見を言って共感してもらったり、相手の意見を聞いて認めたりという経験をするのが大事にされている。一方、集団が小さいだけに、一人の子どもの思いだけで決まってしまうことがないよう配慮することが課題でもある。

3. 協同活動のための話し合いの目的・意味

協同活動のための話し合いの目的・意味として、少なくとも次の三つの点が考えられる。一つは、集団的な伝え合いの場であるということである。話すことは相手に受けとめられる経験を、聞くことは相手を認める経験をもたらす。そして、共に考えていく場を開く。二つ目は、協同活動を充実させることである。子どもたちは、話し合いによって目的を明確にし、楽しさを膨らませながら活動に臨む。それが自分たちでやったという達成感や楽しかったという思いにつながると思われる。三つ目は、生活づくりにおける意味である。話し合うことで喜びを共有したり、困ったことを解決したりしながら生活をつくっていくということである。また、これから先も、話し合いながらみんなで生活をつくっていくための土台をつくるということである。

4. 協同活動のための話し合いにおける課題

本研究の結果から、協同活動のための話し合いにおける課題として、次の三つの側面を取り出すことができる。一つは、A保育士の回答に見られるように、保育の展開の中に話し合いをどう位置づけるかということである。二つ目は、B保育士の回答にあるように、話し合いの内

容と展開についてである。三つ目は、C教諭の回答に見られるように、話し合いを進める保育者の技術についてである。

5. 4歳児クラスと5歳児クラスの話し合いの違い

4歳児クラスと5歳児クラスの話し合いの違いは、思考力や対人関係の側面での発達と、実現できる活動の範囲を広げる諸能力の発達によってもたらされると考えられる。「みんなで」決めたり、できたりすることが嬉しいという4歳児と、「自分たちで」できたことを強く意識する5歳児には、集団意識の違いも見られる。

〈文献〉

- 福岡奈々（2010）仲間との関係をつくりながら育つ（4歳児）．仙台保育問題研究会（編）．みやぎの保育，10，27-35.
- 三浦加奈子（2016）なかまとともに育ちあう．全国保育団体連絡会（編）．ちいさいなかま，641，76-81.
- 野呂アイ・杉山弘子（1998）幼児の話し合い活動についてⅢ－幼稚園・保育所での実態調査から（その2）－．尚絅女学院短期大学研究報告，45，23-30.
- 杉山弘子・野呂アイ（1998）幼児の話し合い活動についてⅡ－幼稚園・保育所での実態調査から（その1）－．尚絅女学院短期大学研究報告，45，13-21.
- 杉山弘子（2015）協同活動のための話し合いに関する幼児の認識：ルールと他者感情の認識に焦点を当てて．尚絅学院大学紀要，69，9-21.

〈謝辞〉

研究にご協力くださった保育者のみなさまに深く感謝を申し上げます。

＜協同活動のための話し合いについての調査項目＞

1. 保育者としての経験年数

- ①保育者となってからの年数と現在の職務
- ②担当クラスの年数

2. 4歳児クラスでの協同活動のための話し合いについて

①日常の活動について

- ・クラスで取り組む活動について話し合っ決めてはあったかある場合、どのようなテーマか
- ・グループで取り組む活動について話し合っ決めてはあったかある場合、どのようなテーマか

②行事について

- ・クラスで取り組む活動について話し合っ決めてはあったかある場合、どのようなテーマか
- ・グループで取り組む活動について話し合っ決めてはあったかある場合、どのようなテーマか

③クラス全体での合意形成について

- ・話し合いの進行役は保育者か
- ・どのような方法、経緯で合意を形成したか
多数決やじゃんけんを用いることはあったか
- ・合意形成にあたり大事にしたこと、留意したことは何か
- ・合意形成において難しいと感じたことは何か
- ・心に残るエピソード

④グループ単位での合意形成について

- ・話し合いの進行役は保育者か
- ・どのような方法、経緯で合意を形成したか
多数決やじゃんけんを用いることはあったか
- ・合意形成にあたり大事にしたこと、留意したことは何か
- ・合意形成において難しいと感じたことは何か
- ・心に残るエピソード

⑤協同活動のための話し合いの目的・意味は何か

⑥協同活動のための話し合いにおける課題は何か

3. 5歳児クラスでの協同活動のための話し合いについて

項目2と同じ。

4. 4歳児クラスと5歳児クラスの話し合いの違い

5. その他、話し合いについて考えておられること、感じておられること